STRIX Vol. 17, pp. 187-190, 1999

高知県におけるハチクマの繁殖確認

黒岩哲夫[1]・橋本裕子[2]・吉本海男[3]・西村俊彦[4]・佐藤重穂[5]

1. 〒780-8052 高知市鴨部1-1-26
2. 〒780-0025 高知市愛宕山11-1
3. 〒780-8130 高知市一宮2514-3
4. 〒780-0032 高知市加賀野井2-11-5
5. 森林総合研究所四国支所. 〒780-8064 高知市朝倉丁915

はじめに

ハチクマ *Pernis apivorus* は，日本では夏鳥で北海道から九州までで繁殖するとされている．四国では徳島県，愛媛県で繁殖記録があり（石原 1982），高知県でもハチクマは夏期の観察記録は多く，1993年7月には高知県西部でヒナ2羽が保護されており，繁殖の可能性が高いと思われていたが（西村 1993），繁殖は確認されていない（森岡ほか 1995）．今回，高知県内で1997年の繁殖期に，巣自体は発見できなかったものの，ハチクマのディスプレイ飛翔から幼鳥の巣立ちまでを観察したので報告する．

なお，森林総合研究所の牧野俊一博士には，スズメバチ類の生活史についてご教示いただいた．ここに記してお礼申し上げる．

調査地および調査方法

調査地は，高知県土佐山村の標高450 mの低山の斜面である．標高400～500 m前後の東西に伸びる丘陵地の尾根の北面に，北向きの谷が入り込んでできている枝尾根の斜面上であり，谷の底面の一部が農耕地として利用されているほかは森林におおわれている．1997年5月から10月までに合計28日間，7時から18時のあいだに1日平均4.75時間，合計133時間，ハチクマの繁殖行動を観察した．必要に応じて5人の観察者が4か所に分散し，相互に無線連絡を取りあいながら，ハチクマの行動から営巣場所を絞り込んだ．繁殖行動の観察は営巣場所と思われるところから400 mの距離から，8倍～20倍の双眼鏡，30倍の望遠鏡をもちいて行なった．成鳥については，羽の模様により個体識別を行なった．調査によって繁殖に影響をおよぼさないように，幼鳥，成鳥とも確認されなくなった同年12月に現地踏査を行ない，営巣環境について植生などの調査を行なった．1998年5月から6月に同所で再度ハチクマの観察を行ない，繁殖に関する追加データを収集した．

1998年11月15日 受理
キーワード：高知県，ハチクマ，繁殖記録

結　果

1997年5月6日から，成鳥雄が急上昇して翼を高くかかげて数回たたき合わせては急降下をくり返すディスプレイ飛翔がみられた．5月23日から6月にかけて，成鳥雄1羽および成鳥雌雄のつがいで上下に帆翔するディスプレイ飛翔がみられた．このような雄単独，もしくは雌雄のつがいが行なうディスプレイ飛翔は，求愛およびなわばり防衛のための行動であり，繁殖行動の一部と考えられる．7月20日に，4か所に分散し，無線連絡を取りあいながら調査したが，営巣範囲を特定するまでにはいたらなかった．8月2日に，1羽がハチの巣をもって降り立つ地点を確認して，営巣場所を特定することができた．この日は，雌雄が交互に営巣場所に出入りして，つがいのうちの1羽が営巣場所に残るという行動をくり返した．7時間の観察内に2回クロスズメバチ類 *Vespula* sp. のものと思われるハチの巣を運び込んだが，1回は成鳥雄であり，もう1回は個体識別できず，性別不明であった．また，営巣場所の木の梢にとまっていた成鳥雌が，近寄るハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* を追払った．8月6日もつがいが確認され，3時間の観察時間内に成鳥雌が1回ハチの巣を運び込んだ．8月8日は2時間の観察で，成鳥雄が1回食物と思われる物を運び込んだ．8月13日，14日，15日は，林内からしきりに幼鳥のものと思われる鳴き声が聞こえていた．また，8月14日は3時間の観察で，成鳥（性別不明）が何か食物を運び，鳴き，成鳥雄は1羽でのディスプレイ飛翔もみせた．8月16，17日と，成鳥雄単独あるいはつがいでのディスプレイ飛翔を盛んに行なった．8月20日，親子3羽での飛翔，成鳥雄単独のディスプレイ飛翔がみられ，この日はじめて幼鳥の姿を確認した．8月22日，幼鳥が単独で林外を飛翔するのを確認した．9月14日，成鳥雌と幼鳥が寄り添うように営巣場所近くの木の枝にとまっているのを観察したのを含め，つがいと幼鳥の3羽がみられた．9月17日には成鳥1羽と幼鳥1羽がみられ，10月8日には1羽（年齢性別不明）を確認し，それ以降ハチクマは確認されなかった．

12月6日に現地踏査によって営巣環境を調査した．谷筋の斜面の一角にある約0.2haのスギ *Cryptomeria japonica* の植林地がハチクマの営巣場所と考えられたが，地上からの観察では，枝が繁茂していたため，巣は発見できなかった．スギ林の樹高は25～30 mで，高木層はほとんどがスギで，わずかにヒノキ *Chamaecyparis obutusa* が混じり，亜高木層を欠いていた．低木層にはまばらにアオキ *Aucuba japonica* などの樹木があったが，林内は暗く，林床には草本はきわめて少なかった．スギ林の周辺にはコジイ *Castanopsis cuspidata*，アラカシ *Quercus glauca* などの常緑広葉樹を主とした二次林，アカマツ *Pinus densiflora* 林，ヒノキ植林，モウソウチク *Phyllostachys heterocycla* 林などがパッチ状に存在し，このうち常緑広葉樹二次林の占める割合がもっとも高かった．営巣場所と思われるスギ林は，周囲の二次林等よりも5～10 mほど樹高が高かった．

1998年5月初旬，今回の調査場所周辺に3羽のハチクマが渡ってきたことが観察された．1羽は若鳥（幼羽）で，よくディスプレイ飛翔をしていた．ほかの2羽は，年齢等の識別はできなかった．しばらく複数の個体が観察されていたが，10日後くらいから営巣地周辺には

姿を現さなくなった．ここでは，1998年に入り，林を切り開き畑が造成されるなど環境が変わったことも影響しているかもしれないが，1998年の営巣は確認できなかった．

考　察

今回の観察では，ハチクマは5月はじめに渡来し，渡ってくると同時にディスプレイ飛翔をはじめ繁殖行動に入った．これに対し同じ夏鳥のサシバ *Butastur indicus* は，4月はじめまでにこの調査地付近に渡ってきて，7月20日には幼鳥2羽を含む家族と思われる集団の飛翔，8月2日にも幼鳥単独の飛翔がみられた．それに比べるとハチクマは渡ってくる時期が遅く，サシバよりも繁殖時期が遅いと考えられる．ハチクマはおもにクロスズメバチ類とコガタスズメバチ *Vespa analis* の幼虫や蛹をヒナに給餌する（松浦・山根 1984）が，これらのハチ類の巣がハチクマにとって餌資源として利用価値が高くなるのは，働きバチが羽化した後の共同営巣期および分業期になり，ハチの巣が大きくなってからであると思われる．これらのハチ類の働きバチの出現時期は，西南日本では5～6月以降であり（有賀 1990，松浦・山根 1984，松浦 1995），ハチクマは食物であるハチ類の生活史に繁殖時期を合わせているために，サシバよりも繁殖時期が遅いと考えられる．

また，8月下旬から9月にかけて幼鳥が独り立ちすると，その後は複数個体が一緒に観察されなくなったので，家族は分散したものと思われる．

高知県を通過する1997年秋のハチクマの渡り時期は，9月下旬から10月中旬が主であった（黒岩 1998）．今回の繁殖個体の家族の分散は，秋の渡りが始まるよりも早くに行なわれたが，家族の最後の1羽が繁殖地から飛去したのは，その渡りの期間の範囲内と思われる．

引用文献

有賀文章 1990. スズメバチの生活. 大日本図書, 東京.
石原保. 1982. 四国の野鳥. 築地書館, 東京.
黒岩哲夫. 1998. 1997年秋のタカの渡り観察結果について. しろぺん (135): 1-9.
松浦誠・山根正気. 1984. スズメバチ類の比較行動学. 北海道大学図書刊行会, 札幌市.
松浦誠. 1995. 図説社会性カリバチの生態と進化. 北海道大学図書刊行会, 札幌市.
森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
西村公志. 1993. ハチクマの繁殖を県内初確認. しろぺん (82): 3-4.

A breeding record of Honey Buzzard in Kochi

Tetsuo Kuroiwa[1], Yoshiko Hashimoto[2], Toshihiko Nishimura[3], Umio Yoshimoto[4], Shigeho Sato[5]

1. 1-1-26 Kamobe, Kochi-shi, Kochi 780-8052
2. 11-1 Atagoyama, Kochi-shi, Kochi 780-0025
3. 2-11-5 Kaganoi, Kochi-shi, Kochi 780-0032
4. 2514-3 Ikku, Kochi-shi, Kochi 780-8130
5. Shikoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute. 915 Asakura-tei, Kochi-shi, Kochi 780-8064

A pair of Honey Buzzards *Pernis apivorus* was found breeding on a hillside in Tosayama Village, Kochi Prefecture in 1997. It was the first breeding record in Kochi prefecture. The breeding behavior was observed from the beginning of May, and a fledgling was first sighted on August 20. The nest site was in a Japanese Cedar *Cryptomeria japonica* stand, surrounded by the secondary forest of broadleaved evergreen trees.

Key words : *Breeding record*, *Honey Buzzard*, *Kochi Prefecture*